



大山千枚田

鴨川長狭地方の方言でカエルをあんどといいます！

第26号 2005. 10. 15

(季刊・年4回発行)

発行・編集 / 大山千枚田保存会
千葉県鴨川市平塚540
「棚田倶楽部」内

TEL: 04-7099-9050

FAX: 04-7099-9051



創造 地域独特の「農型社会」の

愛知県宝来町で開催された第11回全国棚田（千枚田）サミットに参加した。宝来町の四谷の千枚田は関西独特の石積みみすばらしい棚田であった。全国のすばらしい、特に関西の石積みみすばらしい棚田を見るにつけ、重い石を除きながら石積みを作り田んぼにしていく気の遠くなるような作業の中に日本人のお米に対する異常なまでの執念のようなものを感じる。

今回の棚田サミットの基調講演は棚田学会会長の木村尚三郎氏で、先生にはちょうど1月ほど前の棚田学会総会の席上、大山千枚田保存会が第1回棚田学会賞を受賞の折以来の出会いについて述べられていた。「文化とはその地域にしかないローカルなもので、文明とは機械や技術などどこにでも利用できる共有できるものである。21世紀は農的な暮らし、「農型社会」を規範とし、農型社会とは直接に農に関わり土を耕すことも、また都市生活をしながら命を育む食物を生産する農に関心を持ち続ける暮らしのある社会である」と。

成熟社会の中で大きな成長の望めない中、安心安全に主眼を置いた「くらしのち」を大切に地域が守るべきものを見出し、地域の文化として大切にしながらその地域しかない独特の「農型社会」を創造していくことが必要なのである。それはまた都市住民との協働でしか成し得ないものである。

牛太郎

みんなの稲刈り収穫の秋

収穫を終えて

春の田植えに始まり草刈りそして稲刈り、脱穀作業と今年も一連の行事を終えることができました。

今年一年を振り返ってみますと、春の作業については天候に恵まれて田起こしからすべて順調に実施でき、その後の草刈り作業も予定通り実施されました。

しかし、春先の低温で稲の成長が遅れ農業改良普及員に発育状況を見てもらって検討した結果稲刈りを一週間伸ばして行ないました。



その稲刈りも台風の直撃でほとんどの田んぼの稲が倒伏してしまい水が抜け切らないぬかるみの中での稲刈りで作業は難航しましたがそれだけに収穫の喜びはまた格別だったでしょう。

農業は毎年一年生だといわれ、天候に左右され条件が毎年異なりそれに対応しなければならぬ苦勞も大変です。今年の収量はまずまずのようでした。また来年も豊作を願って集い、楽しみましよう。(録)

新米との心地良い一日

九月十一日に脱穀をした籾をさっそく翌日に妻と二人で大山千枚田に持ち込み、駐車場をお借りしてブルーシートに籾を広げて干しました。

籾の匂いの中で春の田植えでは水が多く苗が水にもぐってしまい植え直したところ。夏の草刈りは暑いので朝早く行って刈ったら楽だったこと。稲刈りでは水が残っていて足が取られ尻餅をついたこと。そして脱穀の日に地主の古谷野さんファンの妻が久しぶりに古谷野さんと会え、楽しく話が出来たと喜んでいたりなどを思い出しながら心地良いひとときを過ごすことができました。

棚田を借りた六年前に保存会の方々に教えていただいた藁ぼつちの製作を収穫の記念にと思い取り掛かりました。うまく出来るかなを感じながら藁を積んでいると棚田を見に来られた方が親切に教えてくださり、藁ぼつちもなんとか無事完成することができました。

籾が二時間程度で乾燥でき、精米機に籾を入れると、籾ががらずれ、玄米になり、精米され透明な綺麗なお米が出て感激。保存会の皆様のおかげでおいしいお米を収穫することができました。ありがとうございました。棚田オーナー 会田勇

稲刈りに参加して

トンネルを抜け、いつもの坂道を登っていくと、今年も黄金色の千枚田。千枚田とのお付き合いは、三年前。新聞の記事で千枚田を読んだことが始まりです。今、家の近くに田んぼはなく、自分が子どものころ遊んでいた風景とは程



遠く、子供たちにただ、自分の頃と同じように遊ばせたかった(自分もあのころのように遊びたかった)ことがきっかけです。

鎌を持って、田んぼに入って、手作業で、しっかりと垂れた稲穂を刈っていく。うまきは刈れないけれど、家族や友人みんなと同じ収穫を味わえることがすばらしい体験だと思います。ここには大人も子供もなく、働く人はみな一緒という連帯感が何か懐かしい

感じます。

自分がちょっと休んでいると子供に「やばらないでー」と叱られたり。

よく見ると、おおっ、子どものほうが稲刈りうまい！

稲刈りを通じて、保存会の方々、地域の方、そして同じ会員さん、何より家族、友人とも楽しい会話が aumentata と思えます。そして、その後のお楽しみ。今年もおいしいお米をいただきます。

棚田オーナー・棚田トラスト 岩浅広樹



稲刈りまで

私たちは、この春から「四季を楽しもううたと遊び」(平成一七年度子どもゆめ基金助成事業・東京都地域婦人団体連盟企画)の製作をすすめています。大山千枚田の美しい自然を背景に子どもたちによる田植えや稲刈りなど、里山での体験活動を撮影し、全国の子どもたちへ伝えることになりました。この作品を通して、日本人が大切にしてきた生活の中の

情緒(四季を楽しむ心)を子どもたちや大人たちに伝えていきたいと考えております。

春から夏、そして秋と撮影も順調にすすみ、作品中盤にあたる稲刈りの撮影は、当初九月六日に予定していましたが、台風一四号の襲来で延期、一日の日曜日に変更となりました。秋晴れの中、都会の子どもたち六人が石田さんの指導のもと、かまを持って稲をつかみ、刈り取る経験をしました。稲刈り後のかけばしも初めての経験です。

大山千枚田の貴重な

自然が、ここでの体験を重ねる度に子どもたちに目をみはる成長をもたらしました。子どもたちが自然遊びなどを通して自然の大切さや四季を感じ取り、自然の中で感性を磨き育まれていくことを実感しました。

最後に棚田倶楽部の石田三示様はじめ皆様にご指導賜りましたこと、大山千枚田に出会えたことを深く感謝しております。

桜映画社団体オーナー 山田三枝子

台風後の稲刈り

数日前の台風の影響を気にしながら棚田への道を歩いていくと、稲

穂を地につく込んだような稲が、波のような模様を描いているのが目に入りました。大丈夫かなといぶかりながら棚田倶楽部へ。

幸いお酒用の稲は背が低くて影響は少ないとのこと。安堵しつつ始めての稲刈りです。まずは刈り取った稲を束ねる縄作り。藁を両手で擦っていくのですが、簡単にお手本を示してくれても自分でやると燃れていかない。あれれ。さてここから作業への不安。そういえば、鎌を使うのも生れて初めて。鎌の使い方を教わっていき田んぼへ。うん、鎌は何とか使える。で、刈り取った稲を束ねましょう。「これじ



や、おっこつちやうよ」縛りなおしてもらうと、実にしつかり。おばちゃんは力があります。情けない。どうも力が入らず、緩々の縛り方。何とかコツを教えてもらって、頑張ります。田んぼの中はいろんな生物がいて面白い。バッタや蛙が一杯。邪魔してごめんね、と心の中でつぶやきながら、どんどん刈っていく。刈って束ねて。そして最後に竹を組んだ竿に干していく。これだけの田んぼでこれだけの作業。手作業で全てをやっていた時代に敬意を表して一日の作業が終わりました。

酒づくりオーナー 佐藤 康子



お天道様に願いを込めて

大豆の種蒔き

今年も、三箇所に分かれて大豆の種を蒔いた。去年は干ばつで発芽せず、全て蒔き直し、何とか収穫にこぎつけたので、今年こそ蒔き直しをしなくてすむように、というのが皆の切なる願いであった。

しかし、その願いもむなしく、順調に発芽し育ったのは一箇所だけ。結局、二箇所はまたもや種の蒔き直しとなってしまった。

なぜこのような違いが生じたのだろうか？その原因を明らかにする事で今後にむけて何らかの改善策を見出すことができないだろうかと考えてみた。発芽した所と、しなかつた所の種の蒔き方の大きな違いは、種を蒔くのに空けた穴の深さである。無事発芽した方は深く、発芽しなかつた方は比較的浅かったことが判明。浅いと土の表面が乾き、水不足となり発芽しないが、深すぎると、雨の多い時は、湿気が多すぎて種が腐ってしまうとのこと。畝上げは湿気対策でほどこされたが、今年はずか後、あまり雨が降らなかつたため、浅く蒔いたほうでは水不足で発芽しなかつた。しかし、もし雨が



多く降ってれば、浅く蒔いた方が湿害を避けられ、順調に発芽し深く蒔いた方は湿害のため種が腐り、発芽しなかつたはずである。ということとは、無事発芽を促すには、種蒔き後の天候をいかに推測し、種蒔きの深さを決定するかということにかかっているというわけである。全て天水が頼りの棚田での作業。我々人間の思惑を尻目に、お天道様は天真爛漫である。

安定した収穫量を期待すれば、我々人間は、自然を何らかの手段でコントロールしようとする傲慢な手段に出てしまいがちである。しかし、自然の恵みを享受させていただくという謙虚な態度で臨み、自然の摂理を体感することができれば、それこそが、我々がこの大豆トラストの活動から得られたかけがえのない収穫であると言えるのではなからうか。

草取りの時、大豆畑に息づく多くの命に出会った。蛙、コオロギ、バッタ、蛇……。草を刈り進むとそれにつれ皆一斉に大移動を始める。私達は、大豆の収穫量を増やすという大儀のためとは言え、虫たちの住処である草を根こそぎ抜き去つたのだ。なんて傲慢な生き物なんだろう、人間は。そんな自分に気づくことは、作物を収穫すること以上に貴重な体験である。

蒔き直しせず順調に育つにこした事はないが、蒔き直しは覚悟の上くらいの気持ちで、ゆったりと自然の成り行きと付き合っ行ってきたいものである。(下石)

大豆の

まめ・まめコーナー

豆腐に味噌に醤油に納豆にと私たちの毎日の食事に欠かせない大豆。大豆の雑学を紹介します。

日本で一番大豆が作られているのは北海道。

ふるさととは中国大陸で日本には縄文時代に伝来したといわれている。奈良時代には大豆加工品やその製法が伝えられた。

大豆の名前は「大いなる豆」の意味からついたされている。「大い」は第一番目のという意味で大豆は一番目の豆というわけである。

自給率は大変低く、昭和20年代前半には70%から100%に近かったが昭和20年代後半から減り始め、平成15年度の概算では4%である。

主な成分は、蛋白質、炭水化物、脂質、水分、灰分。その他にも大豆レシチン、大豆サポニン、イソフラボンなど多くの機能性物質を有している。

血中コレステロールの低下作用や抗酸化作用、抗がん作用、骨粗鬆症の緩和等の機能がある。(梢)

水色の絹（シルク）スカーフ、夏空にゆれて…

「藍の草取りと生（なま）葉（ば）染めに挑戦」

今春から始まった「綿藍トラスト」の活動は、綿と藍を育て、紡ぎや織り、染めという手作業を通して、衣食住の「衣」をみつめ直そうというものです。今流に言えば、「もっともスローライフな衣をまとう」ためのLOHAS (lifestyles of Health And Sustainability) な遊び心いっぱいの企画。

「綿藍トラスト」第三回目の活動日は、



真夏の暑い盛りりの七月三十一日。今回もチャレンジ精神に富んだ会員の皆さんが集まりました。午前中は藍畑の草刈り、午後からは摘心した藍葉を使って生葉染めです。

五月中旬、畑に植え付けをした藍の苗はちょっと小さくて心配でしたが、二カ月半の間に、恵みの雨と真夏のお日様の力でずいぶん成長していました。当然、雑草もです。「藍と雑草、まちがえないように！」藍はタデの仲間、本当に雑草みたいなんです。汗だくになって、ひたすら



草をむしります。雑草抜きあい（…）、育てあい（…）、楽しみあい（…）！昼食への帰り道は皆、染めのために数本ずつ摘んだ藍を大事に手にして…。

藍の「生（なま）葉（ば）染め」は、摘んだばかりの藍の新鮮な葉をすりつぶして、しぼり出した汁で布を染める方法です。今回はこの青汁のような生の藍汁で、絹のスカーフを染めました。各自が思いのままに、スカーフに糸や輪ゴムで絞りを入れ、それを藍汁につけて操るうちに色素が布地に吸い込まれていきます。緑色に染まった布を液から出して広げると、不思議です。藍の色素が空気に触れて酸化して、徐々に鮮やかな水色に変わっていきます。藍の生葉染めは、根

から水を吸い上げ、太陽の光を浴びて育った「藍」という草の葉に詰まっている「命の色」をそのままいただく染め物だと思えます。

一枚一枚、違う模様、違う色に染まったオンリーワンの水色のシルクスカーフが夏空にゆれるのを見ながら、今年の大山千枚田が水に恵まれ、豊作になることを願いました。

講師・やまねみちこ

里の草花

セイタカアワダチソウ

（背高泡立草）

キク科 アキノキリンソウ属

北アメリカ原産の帰化植物。

繁殖力が旺盛で他の植物の成長を抑える物質を出している。

世間では評判が悪い花だが群生しているところは見事である。



棚田学会賞受賞

大山千枚田保存会

第一回棚田学会賞を当
大山千枚田保存会が受
賞し八月七日日本橋三
越ホールにて表彰式が
行なわれた。

この賞は棚田学会初代
会長の故石井進氏の遺
徳を偲んで設けられ、棚
田保全活動等で顕著な
業績を上げた個人・団
体に送られる賞で、他
の二団体と共に受賞し
た。棚田学会は棚田の
研究者はもちろん棚田
の保全活動に携わる人
や棚田を愛する一般の
人も会員としている団
体で荒廃し始めている



棚田を見かねたふるさときゃらばんの石
塚さんと写真家の英伸三さんの創設され
たものです。

当日会場の壇上には当会の石田理事長
と事務局の首藤さんが上がった。

審査報告があり受賞理由として行政や
都市住民と一体になりオーナー制を始め
るなど棚田保全活動に功績があつたと報
告され、その後表彰式が行われた。棚田
学会の木村会長から表彰状を石田理事長
へ、盾が首藤さんへ贈られ、当日集まつ
た大勢の棚田学会のメンバーより大きな
拍手が起こった。当日石田理事長の記念
講演が行われ、スライドを用いてオーナ
ー制やトラスト、酒米トラスト、大豆ト
ラスト、綿藍トラスト等様々な活動を行
っている大山千枚田の保存会活動の説明
を行った。

棚田学会副会長でご自身も大山千枚田
オーナーの中島早稲田大学名誉教授や副
会長で劇団ふるさときゃらばんの石塚さ
んより暖かい言葉をいただいた。

授賞式の最後には受賞者や棚田学会の
理事の皆さんと共に保存会メンバーが壇
上で並んで記念撮影が行われカメラマン
や我々保存会のにわかカメラマン達の放
列が見られた。

三越で懇親会が行われ関係者でお酒を
飲みながら話が弾んだ、各地の棚田活動
をしている仲間や写真家そして鴨川サミ
ット以来久々に再会する人もいてデパー
ト終業時間後まで続いたのです。

(向)

棚田サミット鳳来町参加

九月二・三日両日愛知県鳳来町で行わ
れた「水と緑と心のオアシス」をテーマ
とした第一回全国棚田「千枚田」サミ
ットに大山千枚田保存会のメンバーが参
加した。鳳来町は愛知県東部の東三河地
方にあり声の仏法僧として知られるコノ
ハスクが住む鳳来寺山がある。

初日午後の開会式に続き棚田学会会長
でもある東大の木村名誉教授の講演が行
われ日本では自然の一部として人間がい
て自然すなわち山と緑と水の恩恵を受け
て糧や心のなごみをもたらすものであると
の話があつた。

講演が終わると待望の鳳来町四谷千枚
田の見学が行われた。保存会メンバーは
棚田に作られた道を下りながら地元農家
の方の説明を受けたり、参加した全国の
棚田関係者と語りながらゆっくりと下っ
ていった。四谷千枚田は標高差二〇〇米
に及ぶ長い棚田であり、当初よりあるこ
く小さいたんぼと明治の土石流災害後の
復田で出来たやや大きめの田んぼがあり
石積みの斜面を持っている。

千枚田を歩く途中で地元連谷小学校の
子供達により棚田についての研究発表や
棚田での遊びの実演が行われた。研究内
容は棚田の数や休耕田などの使用状況な
ど四谷千枚田の現状調査や専用田んぼで
の米作りを通して行っている水温調査な
どであり大人の研究に引けを取らないも
のであつた。四谷千枚田では休耕田の活

用として他作
物への転作が
模索されあり
すでに梅の木
への転作が行
われ始めてい
るが小学生達
は転作や観光
化以外の解決
法により稲作
を継続する方法がないか訪れたサミット
メンバーに真剣に尋ねていた。

大会二日目には分科会が行われ、午前
中各分科会に分かれて討議を行った。第
四分科会では保存会石田理事長の事例報
告があり鴨川での地元農家と都市住民が
一体となって活動をしている事を報告し
た。午後には各分科会の報告及び質疑が
行われ、コーディネーターの中島早稲田
大学名誉教授より石田理事長の報告が紹
介された。又地元四谷千枚田の保存会で
はオーナー制を導入すると長年の伝統が
都市住民の異なつた考え方により消える
のではないかとこの危惧が質問され、大山
千枚田保存会三号会員により、都市から
来た会員は地元会員と心は変わりなく地
元と一体になって活動している鴨川市の
事例を説明した。

バスに乗り帰宅する全国から来たタナ
ディアン達は地元鳳来町の人たちに手を
振って見送られながら親切さと千枚田の
心安らぐ風景を胸に残して帰っていつ
た。

(向)



収穫祭 雨なのに大盛況

去る十月九日、全国的には行楽日和だったのですが、千葉は秋雨前線が微妙にかかっていたので、雨。そんな日にもめげず収穫祭が盛大に行なわれました。

前日からの入念な準備のおかげで、ステージもバーベキューをはじめとする各コーナーも、テントが張られた雨仕様に なっています。問題は、こんな天気で人が集まるかどうか。そんな心配をよそに、受付が始まると、続々と集まり、開会式が始まるころには柵田倶楽部が色とりど

りの傘やレインコートでいっぱい、ちよつと華やいた雰囲気になりました。結局約四百五十名集まりました。キヤンセルはほとんど無かった様です。

開会式に先立ちステージでは柵田ダンスによる創作ダンス里舞「ルーツ」の披露。気分が一気に盛り上がりま す。その後、開会宣言、来賓挨拶に続き恒例となった「大山千枚田写真コンテスト」と「かしコンテスト」の表彰式では、お米や地元企業から提供された賞品が抱



えきれないほど手渡されました。表彰式が終わるといよいよ乾杯。餅つきもすぐに始まります。大人がしっかりとこねて、仕上げは子供達で。つきあがったお餅にはすぐに長蛇の列ができました。一方バーベキューやとん汁コーナーも人気です。ちよつと肌寒い今日は温かいとん汁がありがたいです。皆おいしそうに食べていました。

やがてステージイベント「集まれ柵田フレンド」が始まります。まず八千代少年太鼓隊による太鼓の演技。少年とは思えない力強い太鼓の音が柵田倶楽部に響きました。続いて帆船日本丸あんご合唱団のコーラス。熟



れました。その次は柵田ダンスによる創作ダンス里舞「華」。オープニングの子どもたちとは又違った大人の優美さがあります。最後に麻生幸枝さんによる歌謡ショーがありプロの歌唱力を見せ付けてくれました。

ステージでのプログラムが終わると会場を下の駐車場に移して案山子のお焚き上げです。これは大事な稲穂を害鳥から守ってくれた案山子を供養するものです。雨ですっかり濡れてしまった案山子ですが、参加者の見守る中勢よく炎を上げていました。

その後再び会場を柵田倶楽部に移して、親睦会から今日の収穫祭を盛り上げてくれた数々のステージイベントに感謝の意を込めて、特に良かったイベントに賞が送られました。

年のお父様達ですが、ダークダックスにも引けをとらないんじゃないかと思わせる見事なハーモニーにしばし聞き入ってしまった。その次はふるさとときやらばんメンバーの北村妙子さんによる踊り。優雅な舞に思わず見とれてしまいました。次も踊りは踊りですが、だいこん踊り。東京農業大学の応援歌です。山口民雄さんをはじめとするオーナーさんが踊ってくれました。続いて安来節保存会によるどじょうすくい。去年に引き続き二回目の参加です。手つき足つき動作の一つ一つにベテランの貫禄を見せてく

れま 今年、雨にもかかわらず大変な盛り上がりを見せた収穫祭でした。お米作りもこれで一段落。でも、お酒造りに大豆に綿藍。柵田は休む暇なんかありません。

(鈴)

写真コンテスト

第四回「大山千枚田(棚田)写真コンテスト」の審査会が、日本写真家協会会員の英伸三氏を迎えて開催されました。

大山千枚田オリジナルカレンダー製作、観光宣伝に効果のある作品を募集しましたが、今回も三一九点の力作が集まり審査委員達を悩ませたようです。時間をかけ一枚一枚が丁寧に、そして厳正に審査されました。審査終了後、委員長の英氏より次のような講評を頂きました。

「毎年のごとくであるが、撮影の対象が大山千枚田に限定されている中で、数多くの多彩な作品が寄せられたことはすば



らしいことである。撮影するうえで棚田は農業の現場であるので農作業の動きがないと作品作りは難しいと思うが、四季折々に人の動きや光の変化を追いながら作品作りに苦心をされているのが伺える。今回、今までになかった光景として、春光の水を張った田んぼの雪の風景、田んぼの畦きりの仕事の様子、都会に一番近いということであるうかが棚田を訪れる若い人たちを表した作品などバラエティに富んでいた。

最優秀作品の「夢ある二人」については、ツーリングの途中立ち寄った若い二人、千枚田の見晴台から棚田のすばらしさに顔がほころんだ瞬間を捉えている。棚田は稲の成長が著しいときに稲の青さとバイクの色のコントラストが大変楽しく、これまでになかった作品である。」

審査会終了後、早々に大山千枚田保存会ではこの入賞作品の中から、十三点で平成十八年度のカレンダーを製作しました。

入賞者と作品は次の通りです。

最優秀賞 夢ある二人

大勢登 雅史

優秀賞 夏の思い出菅原 康世

優秀賞 冬の棚田 吉田 幸江

入選 春の草刈 君塚 敏江

入選 畔造り 中山 英樹

入選 野焼 岡田 志郎

入選	この花止まれ	竹内 朗
入選	彩り	松浦 昭子
入選	田植えあそび	石井 一雄
入選	吹雪	廣部 政美
入選	芝焼きの頃	河合 芳男
入選	棚田の秋	熊澤 芳男
入選	晩秋の千枚田	井上 正治
佳作	雪化粧	加藤 裕子
佳作	爽風	小田原 朝明
佳作	春近し	三沢 貞夫
佳作	憩い	京塚 敬之
佳作	千枚田早春	仁平 政夫
佳作	春の足音	河合 芳男
佳作	詩く	松本 正雄
佳作	早春	木城 照夫
佳作	皆で田植	齋藤 民哉
佳作	明日は田植え	中山 英樹
佳作	家族で田植	小山内 修身
佳作	早春	吉田 幸江
佳作	苗育つ	渡辺 昇
佳作	私の散歩道	大勢登 雅史
佳作	雨にも負けず	滝口 照子
佳作	あじさいの頃	並木 明
佳作	水撒き模様	吉田 金造
佳作	夏の思い出	菅原 康世
佳作	秋の陽	松浦 昭子
佳作	秋の大山千枚田	君塚 義美
佳作	迎春雪	山田 栄太郎
佳作	稲刈りの美事な模様	
佳作	秋景	吉野 章郎
佳作	夕暮れの残り柿	菅原 讓太郎

葉山きよの うめじょよ



なめみそ麴

豆・麦・米を材料で醸造した味噌に野菜をいれて作る「なめみそ」です。

材料

- なめみそ麴 一枚
- 水 二〇〇cc
- 野菜 なす・生姜・シソの実
- 塩 二〇〇g
- 砂糖 五〇〇〜八〇〇g(お好みで)

作り方

なめみそ麴に水を入れてかき回し炊飯器の保温で2時間、途中1時間くらいでかき回す。
2時間たったら砂糖を入れる。
野菜はきざんで塩で押して水気をきって入れる。
なめみそ麴は、麦から作った麴で、専門店などで取り寄せが出来ます。(幹)

緑風に誘われて

『田舎』の魅力とは？

東京の、しかも山手線の内側で育ち、祖父の家も都内にあった私にとつて、田んぼや畑、里山は原風景というよりも、何か新鮮な響きを持って語られるものである。

小学生の頃、夏休みの度に田舎に帰って、おじいちゃん、おばあちゃんの家のまわりで虫取りをし、田んぼで見た蛭の話をする同級生たちを、ただただうらやましく思っていた。母親に「うちには田舎がないの?」と、真剣に聞いたこともある。辞書によると、本人の生まれ育ったところも田舎と呼ぶらしいが、私にとつては周りに田んぼや自然のあるところが『田舎』なのである。

その反動なのか、ひとりであちこち行けるようになってからは、都会から離れた『田舎』に好んで行くようになった。

初めて見た棚田は能登半島。このまま海に落ちてしまうのではないか、と思うほど海岸線ぎりぎりにはりついている(よつに見えた)田んぼと、蒼い海の色コントラストが美しかった。あゝ、美しい日本の風景やね」と、同行の友人と感動していた。

ある年、友人を訪ねて立ち寄ったイン



ドネシアの『田舎』

に広がる田園風景を見て、日本はアジアとつながって

いるのだなあと思感。もちろん、景観のプロに言わせれば、違いはいくつもあるのだろうが、その醸し出す雰囲気は明らかに「アジア」という共通のものを持っているような気がするのだ。バリ島に何度も行っている友人は、大山千枚田を見て「あ、バリ島みたいだ。懐かしい感じがする!」と言って、某理事長に「なーに言ってるの。これが日本の風景だよ」と、突っ込まれていたが...

今年、初めて大山千枚田を訪れ、勢いで四回ほど通ってしまった。九月一八日の中秋の名月の夜には、勝手にお月見も

させてもらった。棚田を眺めながら、風

を感じ、ただぼーっと過ごす時間に感謝している。棚田の魅力はもちろんのこと、それを守り育てようとしている保存会の皆さんの気持ちや、初対面するときから垣根を取り払ってつきあってくれる優しさがある。この地に足を向けさせる理由になっている。

そうなのだ! 『田舎』とは、田んぼや自然があるという風景だけではなく、そこで暮らす人たちの息づかいが聞こえてくるところなのだ。だからこそ、こんなにも魅力的で、何度も訪れたいくなるのだ。大山千枚田はまぎれもなく、私にとつての『田舎』であり続けるだろう。

さて、今年やり残したことのひとつは、蛭を見られなかったこと。水俣のお茶畑で見た蛭は、ふわーっと儂げだった。パングラデシユの水田で見た蛭の群れは、それはもう大群で...まばゆいばかりに光っていた。来年、大山千枚田で見る蛭はどんな光を放っているだろうか?

東京都荒川区 原田麻里子

里山を散歩

亀石山

金東区民の共有林

亀石山は金東(こづか)の北西に位置し、引越(ひっこし)集落から南に

山腹を見させている。山頂は平らな台地がわずかで、北側になだらかな裾野を広げているが急斜面もある。山の広さは十町歩にも及ぶという金東区民の共有林であった。山頂にある亀石山御嶽(おんたけ)山(さん)神社(御嶽権現)は守護神として祭られている。

共有林は里山として里人に偉大な恵みを与えてきた。里山の樹々は秋から冬にかけて枝葉を落とす。堆積された落葉は、山に降った雨を溜める自然のダムになる。一滴のしずくから流れ出した水は、住民の命の水、飲料水から耕作田の水資源として利用されてきた。野蓀やウドなど山菜も採取した。山の樹木は燃料として薪をきり炊事や風呂に焚き、炭を焼き冬の暖房に使った。

区民は下刈りや枝打ち等の共同作業を続けながら守り続けてきた。近年時代の波に抗しきれず売却されて勝手に渡ってしまった。近隣の共有地も里人の手を離れていったという。出来る事なら里山が売却されることのないよう願って里山を大事にした。

亀石山の歴史について付記すると、御嶽山神社の下に大砲が設置されることになり勤労動員されて、資材を運び上げた。(富)

お知らせ

平成一八年度大山千枚田オリ ジナルカレンダー販売中!

毎年好評をいただいている大山千枚田
カレンダーが出来上がりました。

先頃行われた写真コンテストの入賞作
品の中から、季節感溢れる棚田を収め
ました。

一部 千円(消費税込み)

秋の自然観察会

稲刈りが終わったあとの田んぼの虫た
ちや畦の草花、木の実などの様子を観
察しましょう。

日時 十一月六日(日)一〇時から

場所 棚田倶楽部

持ち物 スケッチブック・筆記用具・

帽子・弁当・水筒・雨具(あ
ればルーペ・動植物図鑑

参加費 千円

締め切り 十一月二日

凧作り教室

棚田の秋を楽しみながらシンプル凧を
作って凧揚げをします。凧揚げを通し
て日本の伝統文化や里山の身近な自然
の不思議を体験してみましよう。

日時 十一月二〇日

場所 棚田倶楽部

講師 高橋忠友(日本の凧の会会員)

参加費 千円

材料 道具は保存会で用意します。

しめ飾り作り教室

しめ飾りは日本の稲作りから生まれた
伝統的な文化です。一年を振り返りな
がらしめ飾り作りをしてお正月の準備
をしてみませんか。

日時 十二月一八日(日)

場所 棚田倶楽部

参加費 千円

材料 道具は保存会で用意します。

平成一八年度棚田オーナー募 集開始

中山間地域では機械化が進まず休耕地
や荒地が増えています。農業従事
者の高齢化や後継者不足などで、地域
での保全が困難になっています。そこ
で都市住民に支援を呼びかけ米作りに
参加してもらおうと始まったのが棚田
オーナー制度です。

募集は二三六区画ですが継続者が優先
となります。

棚田農業特区の認定により鴨川市全地
域に拡大した特区オーナー制度は、来

年度も一箇所(二子地区・一五名)増え、
七地域で募集することになりました。

締め切りは、平成十八年一月三〇日
です。アンケート審査後、抽選で決定
します。詳細は棚田倶楽部まで。

平成一八年度棚田トラスト会 員近々に募集開始

大山地区全体の棚田保全に力を入れて
いこうと、大山千枚田保存会独自の活
動を展開しているのが棚田トラストで
す。

年会費三万円で、大きな田んぼをみん
なで作業し、収穫したお米は全員で分
けます。一つの田んぼをみんなでわい
わい楽しく作業しますので交流の輪が
広がります。

締め切りは二月末日までです。詳細は
棚田倶楽部まで。

里山のんびりウォーキング

大山千枚田周辺の里山をのんびり歩き
ませんか。地域の歴史を物語る大山不動
尊や安房周辺を見渡せる津守山に登りま
す。

日時 十一月二三日(祝)9時集合

集合場所 棚田倶楽部

持ち物 昼食・飲み物・雨具・帽子
など

費用 大人五百円 小学生二百円

行事予定

- 一〇月三〇日 綿藍オーナー綿収穫
- 十一月 六日 自然観察会
- 十一月 五日 第九回理事会
- 十一月 二〇日 凧作り教室
- 十二月 一八日 しめ飾り作り教室
- 十二月 四日 トラスト大豆収穫
- 十二月 一五日 第一〇回理事会
- 一月 八日 酒オーナー酒感見学
- 一月 一五日 第一一回理事会
- 一月 二七日 麹作り
- 一月 二八日 豆腐作り
- 一月 二九日 味噌作り
- 二月 五日 酒づくりオーナー蔵開き

棚田倶楽部

TEL:04-7099-9050 FAX:04-7099-9051

mail:info@senmaida.com

開館日のお知らせ

火曜日除く9:00から16:00

千枚田の動き

新入会員

平成 17 年 10 月 15 日現在

正会員

122 名

山路永司 (横浜市) 佐久間泰一 (つくば市)
千田正美 (市原市) 重正子 (鎌ヶ谷市)

賛助会員

406 名

鈴木張司 (鴨川市) 江上輝彦 (市川市)
川合徑 (君津市) 川名幾子 (鴨川市)
塚越恭子 (鴨川市) 米澤茂和 (江戸川区)
大田原康志 (八王子市) 石田泰教 (横須賀市)

団体賛助会員

株式会社大塚商会

平成 17 年 7 月 ~ 10 月

- 7月6日 市川市第五中草刈り体験
- 10日 棚田オーナー草刈り
- 13日 市川市稲越小、平山小見学
- 16日 電機連合草刈り
- 17日 大豆畑トラスト種蒔き
- 18日 レストランプロジェクト会議
- 19日 祭り寿司作り練習(女性支援者)
- 20日 景観草刈り
- 21日 文化的景観説明会(地権者等)
- 22日 丸山町・和田町商工会婦人部祭り寿司体験教室
- 25日 レストランプロジェクトおにぎり試作試食
- 27日 ブータンより農業研修受け入れ~29日
- 31日 綿藍トラスト草取り・生葉染め
- 8月1日 三輪田女学園草刈り体験
- 地権者会議・]臨時理事会(稲刈り延期について)
- 3日 大豆畑大豆蒔き直し
- 7日 棚田学会表彰式(日本橋三越)
- 13日 大豆畑トラスト草取り
- 14日 棚田オーナー草刈り・かかし作り・景観草刈り
- 17日 ブータンより農業研修受け入れ~19日
- 19日 写真コンテスト審査会
- 20日 棚田トラスト草刈り
- 28日 酒作りオーナー稲刈り
- 29日 写真コンテスト受賞作品展示(みんなみの里)
- (~9月16日)
- 9月2日 全国棚田「千枚田」サミット(鳳来町)参加(~3日)
- 3日 棚田オーナー稲刈り(~4日)
- 4日 酒オーナー脱穀
- 7日 下目黒小稲刈り
- 11日 棚田トラスト稲刈り・棚田オーナー脱穀
- 12日 早稲田大稲刈り体験
- 13日 早稲田大祭り寿司作り体験
- 17日 電機連合稲刈り
- 18日 電機連合体験活動
- 棚田トラスト脱穀
- 19日 大豆畑トラスト草取り
- 28日 周西小棚田勉強会
- 10月1日 オーバーナイトウォーク(~2日)
- 8日 収穫祭前夜祭
- 9日 収穫祭

会員募集

大山千枚田保存会では、棚田を中心とした里山の保全や都市農村交流に興味と理解のある方の入会を常時受け付けています。

年会費
正会員 3,000円
賛助会員 1,000円
団体賛助会員 10,000円

納入先 銀行振り込みの場合
JA鴨川 大山支店(普)0000487
特定非営利活動法人 大山千枚田保存会
理事長 石田三示
郵便振替の場合
00190-1-603917 NPO法人大山千枚田保存会
現金書留の場合
〒296-0232 千葉県鴨川市平塚540
棚田倶楽部内 大山千枚田保存会事務局
TEL:04-7099-9050
FAX:04-7099-9051

編集スタッフ

編集委員長
編集副委員長
編集委員

首藤悦子
二川康一
柴崎五郎
富順一
松本智久
鈴木幹吉
片木智久
羽原平
向下功一
石原典一

編集後記

収穫祭が終わりました。小雨が降ったりの悪天候でしたが予想以上にたくさんの人達が参加してくださいました。ありがとうございました。疲れも少し和らいだその翌日、後片付けに棚田倶楽部へ向かいました。途中、長狭街道から千枚田への坂道のコスモス街道(私が勝手に名付けました)のいつも見慣れているコスモスが、その日はとても優しく美しく目に映りました。収穫祭が無事終わり私の気持ちにも余裕がでたせいでしょうか同じ景色がとても新鮮に感じました。「ごらん、世界はこんなに美しい」という素敵な言葉を聞いたことがあります。その時々気分によつていろいろに見えるでしょうが気持ちに余裕を持ちいつとも感じていたいな、と改めて思いました。(悦)